

理想郷の名の由来

大正時代末期に、この地を理想郷と名付けたのは、現鶴原館当主の叔父である後藤杉久である。後藤杉久は、この地を別荘地分譲を目的に開発した際に、温暖な気候で、風光明媚で豊かな自然を有するこの地を理想の郷（さと）「理想郷」と命名した。これが、理想郷の名の由来だといわれている。

後藤杉久は、大正11年頃に、東京から大臣や国会議員等を理想郷に招き、連日連夜大園遊会を開き理想郷を大々的に売り出した。その結果、大木遠吉（鉄道大臣）をはじめとする大臣が別荘を理想郷に建てた。鉄道も開通し昭和2年に鶴原駅もできた。



明神岬の園遊会の特設会場



園遊会では料理と酒が振る舞われ、芸者が接待した



この園遊会には当時の大臣が少なくとも6人参加している。右の写真には氏名が書かれている



園遊会での船遊び



園遊会での地引き網



大木遠吉の別荘と鶴原館（右端）



後藤杉久の石碑



後藤杉久と主な園遊会参加者

上左から

後藤杉久、大木遠吉鉄道大臣

内田康哉外務大臣、水野錬太郎内務大臣

山梨半造陸軍大臣、

下左から

鎌田栄吉文部大臣

岡野敬次郎司法大臣